

2024 年度第 2 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2025 年 2 月 16 日（日）12：00～17：30（受付 11：30～）

会 場： AP 品川（東京都港区港南 1-6-31 品川東急ビル 8F）/Zoom

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2024 年度第 2 回の全国研修会を AP 品川で開催いたします。今回も、前回に引き続き、オンサイト参加とオンライン参加のハイブリッドで開催させていただきます。

全体会では、当学会の理事長であります京都大学名誉教授・放送大学特任教授の桑原知子先生にご登壇いただきます。みなさまご存じのように、桑原先生は学校現場や家庭裁判所などを含め、さまざまな臨床現場での知見を積み重ねておられます。そして箱庭や夢、描画などイメージを重視しながら、クライアントに関わる周囲の人たちとの連携にもこころを砕いておられます。

今回の全体会では、「「1 対 1」から「チーム」の心理臨床へ—連携のさまざまなイメージを考える—」というテーマでお話いただきます。『教室で生かすカウンセリング・アプローチ』（日本評論社）や、『教室で生かすカウンセリング・マインド』（日本評論社）の著作のなかでも、現場の教師のこころの支えになる臨床を紐解いてくださっていますが、今回は特に「チーム」の心理臨床について実際の臨床に即して詳しくお話いただけることと思います。

後半では、震災対策分科会を含め、6 つの分科会を設けております。これまでずっと渡部純夫先生とともに震災対策分科会を担当して下さっていた岸良範先生が、大変、悲しく残念なことにお亡くなりになったため、今回からは渡部先生おひとりで担当していただくことになりました。

事例を募集している分科会もございますので、どうぞ奮ってご応募ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2024 年 12 月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 岩宮恵子

能登半島地震により被災された石川県、富山県、福井県にご住所を登録しておられる会員の方々につきましては、本研修会の参加費を無料とさせていただきます。多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

<開催要領>

1. 定 員：オンサイト参加者 120 名
オンライン参加者 無制限

会場に来場いただく「オンサイト」参加と、Zoom を使用して視聴いただく「オンライン」参加を選択可能なハイブリッド形式での開催となります。

参加資格：心理臨床の事例に関して守秘義務を負うる、以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
- ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
- ③臨床心理学およびその関連領域で心理臨床の実践的な仕事に従事されている方
- ④心理臨床を専攻する大学院生

2. 参 加 費：学会員：4,000 円 非会員：7,000 円 大学院生（非会員）：5,000 円

3. **研修ポイント**：全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には2ポイント、分科会での事例発表者には4ポイントが付与されます。

4. 研修内容

- (1) 全体会：12：00～14：00

テーマ：『「1対1」から「チーム」の心理臨床へ—連携のさまざまなイメージを考える—』

講師：桑原 知子（放送大学）

心理臨床のあり方にはさまざまなバリエーションが生じており、大きな動きとしては、「1対1」というオーソドックスなかたちから「チーム」というかたちへの変化があるように思われます。そして、「チーム」の心理臨床においては、「連携」が重要なテーマとして立ち現れてきますが、この「連携」には、さまざまなイメージがありうるのではないのでしょうか。全体会においては、この「連携イメージ」について、それを拡充していきたいと思います。

- (2) 分科会：14：30～17：30

以下の6グループに分かれ、分科会を行います。

概要の最後に「事例募集」の表記のある分科会では、事例発表者を募集しています。事例発表希望者は、「5. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

● 第1分科会 岩宮 恵子（島根大学）

『クライアントとセラピストの間にある「第三のもの」としてのWAIS』

風景構成法やバウムなどの描画テストは、面接の担当者が心理療法のプロセスのなかで行うことが多い。そしてそこで表現されたものを大事なイメージである「第三のもの」として治療関係の間に置いて向かい合うことは大切なこととして行われている。一方でWAISなどは面接者ではなく、別の人が実施することを推奨されていることが多い。それは、心理療法のなかでの関係性と、客観的なテスト結果とがバッティングして、治療経過にマイナスな影響があることを避けるためだろう。ところが、WAISを心理療法の担当者が実施し、そのフィードバック自体が治療促進的に働く場合もある。今回は、長年、傷つき苦しんでいたクライアントが心理療法の担当者によるWAISの実施とそのフィードバックをきっかけとして劇的に変化していった事例から、心理テストが心理療法自体に及ぼす影響や、どういう時にこのような働きかけが治療的に働くのか、そして実施時には何に気をつけねばならないのか、どういう場合だとそれはマイナス要因になってしまうのかなどについて考えていきたい。

（事例提供者：斎藤 真喜子氏）

● 第2分科会 河合 俊雄（京都こころ研究所）

『夢の経過と事例の経過』

夢の報告を受けつつの心理療法では、夢での変化がクライアントの現実の変化と対応することも、対応しながらも時間的なズレが生じることも、ほとんど対応していないように思われることもある。それにも現実ではあまり変化がないのに、夢ではよくなってきていることがわかったり、逆に現実適応が進んでも夢は変化せず、根本的な問題が動いていないことへの危惧が抱かれることもある。この分科会では、まず夢の経過を検討し、後からの事例の経過の検討とどのように重なるのかを比べ、心理療法における夢の報告の受けとめ方を考えたい。

（事例提供者：宮澤 淳滋氏）

● 第3分科会 桑原 知子（放送大学）

『「1対1」から「チーム」の心理臨床へ—連携のさまざまなイメージを考える—』

全体会でもとりあげたように、心理臨床のあり方にはさまざまなバリエーションが生じており、大きな動きとしては「1対1」というオーソドックスなかたちから「チーム」というかたちへの変化があるように思われる。そして、「チーム」の心理臨床においては、「連携」が重要なテーマとして立ち現れてくるが、この「連携」には、さまざまなイメージがありうるだろう。本分科会においては、この「連携イメージ」をめぐる、特にその困難さを事例のなかで検討しながら、その有様について、考えてみたい。

<事例募集>タイトルに触発される事例であれば、どこでなされたものでも、どんな形式のものでもかまいません。

● 第4分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

『青年期心性の今日的な変容について：学生相談における心理学的なもの』

「昭和」の学生相談の場では、「アバシー」や「対人恐怖」等の悩みがよく相談されたが、時代は「平成」「令和」と移り変わり、「不安を抱えられず、悩めない」学生の増加を指摘する声も強くなった。このようなトレンドのなかで、学生相談は、サイコロジカルトークが展開する場というよりも、「合理的配慮」を含めて、より具体的に学生の「生活」「行動」を支える場となりつつある。この分科会では、山梨大学学生サポートセンターの西谷晋二氏にイメージ表現を用いた心理療法の事例の発表をお願いし、「サイコロジカル（心理学的）なもの」それ自体の定義を今日的に見直し、一見すると非心理学的な「心理学的なもの」について考えてみたい。

（事例提供者：西谷 晋二氏）

● 第5分科会 田熊 友紀子（代官山心理・分析オフィス）

『リアルとファンタジーの“あわい”の遊び～児童養護施設での事例とともに考える』

子どもとのプレイセラピーの中で、ファンタジーや遊びとは思えないほど生々しい表現がなされ、セラピストがたじろぐことがある。特にトラウマティックな体験をした子どもとのセラピーでは、子どもの内的な傷や痛みをセラピストに投げ込むような展開がしばしば生じ、この時、セラピストもまた遊びにとどまることが困難になることがある。このようなリアルとファンタジー、象徴的なものと生々しいものとの「あわい」の遊びや表現を、セラピストとクライアントの間に醸成されるセラピューティックな「遊びの場」のなかでいかに抱えていくことができるか、児童養護施設での事例を通じて考える。

（事例提供者：原田 靖子氏）

● 震災対策分科会 渡部 純夫（東北福祉大学）

『被災者の「つぶやき」に込められた意味を、臨床家はどう捉えていけばよいのだろうか』

高村光太郎の『智恵子抄』の中で、「智恵子はほんとの空は安達太良山の山の上に毎日出ている青い空がほんとの空だ」と書かれています。福島の空は、人々のところにほんとうの青い空を届けることが出来ているのでしょうか。東日本大震災から14年の年月がたとうとしている今日、東京電力第一原子力発電所のデブリの取り出しは遅々として進んでいない状況にあります。一方子どもを含め多くの人々の心の苦しみからの解放も進んでいるとはとても言い難い状況であると思われまます。自分の辛かった体験を話すことで、少しずつでも癒されると私達臨床家は考えるのですが、福島の被災者はようやく「つぶやくこと」を始めたばかりであるといえます。今回は、そんな人々の「つぶやき」に耳を傾けてこられた、桜の聖母短期大学の講師である滝谷寿美先生に、人々の「つぶやき」について語っていただきながら、福島の人々のこころの本音に迫ってみたいと思います。できるだけ多くの方のご参加をお願い致します。また、長く一緒にこの分科会を続けてこられた今は亡き岸良範先生の熱い思いを、絶やさないように頑張っていきたいと考えております。

（報告者：滝谷 寿美氏）

5. 参加・発表申し込みについて

【参加申込】

当会ホームページ（<http://www.sandplay.jp/training.html>）および右記 QR コードの申込フォームよりお申し込み下さい。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお問い合わせください。



【秘密保持に関する誓約書の提出について】

参加申込フォームに誓約書の入力画面がございます。内容をご確認いただき、チェック入れてください。誓約書をご提出いただけない場合は、大会・研修会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止、研修会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますので、あらかじめご了承ください。

【事例発表申込】

上記の参加申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある「事例概要記入シート」にご記入の上、別途メール添付で日本箱庭療法学会全国研修会事務局 (training_jast@sandplay.jp) までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※「事例概要記入シート」は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。

※ **事例発表申込締切：2025年1月10日（金）【必着】**

※ **参加申込締切：2025年1月29日（水）【必着】**

- ・お申し込みは原則として先着順です。
- ・分科会コースの通知はおこないません。お申し込みいただいた分科会で受付けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

6. 参加費振込みについて

- ・自動返信メールを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

<郵便局・ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

振込先： 00900-8-233788

加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

<他金融機関から振り込まれる場合>

銀行名：ゆうちょ銀行

店番：099

預金種目：当座

店名：〇九九店（ぜろきゆうきゆう店）

口座番号：0233788

- ・お振込の際に、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入のうえ、お手続きください。（例：8528 ハコエワタウ）
- ・振替用紙を使用される場合、通信欄には「2024年度第2回全国研修会参加費」と自動返信メール内に記載されている【受付番号】とお名前をご記入ください。（例：8528 ハコエワタウ）
- ・納入された参加費の返金はできませんので、あらかじめご了承ください。

※ **参加費振込締切：2025年1月31日（金）**

7. 参加証について

オンサイトで参加された方には、当日受付にて参加証をお渡しいたします。参加証が研修会証明書の代わりになりますので、大切に保管してください。

オンラインで参加された方には、終了後にメールにて送付いたします。送付までにお時間を頂戴いたしますので、ご了承ください。なお、終了後1ヵ月を過ぎても届いていない場合は、training_jast@sandplay.jp までお問い合わせください。

8. 会場案内

<電車でお越しの場合>

各線「品川駅」港南口より徒歩6分

<お車でお越しの場合>

近隣の有料駐車場をご利用ください。

詳しくは、AP品川のホームページをご参照ください。

(<https://www.tc-forum.co.jp/ap-shinagawa/access/>)

9. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会 全国研修会事務局

E-mail : training_jast@sandplay.jp

